

<第1回 ショートハンドチャレンジ1・2・3 レースレポ>



6月11日(土)第1回 ショートハンドチャレンジ1・2・3に出場し、シングルハンドの部で見事 FORTALAZA II 優勝いたしました～!(ワ～パチパチ!花火ドンドン!ピ～ヒャララ!万歳万歳～この日を国民の休日に!!)シングルだと表彰式に仲間がいないからちょっと寂しかったです。シャークさんがいてくれてよかったです。そんな訳でここから先は自慢話です。クラブレース以外の公式戦初優勝なので大目に見てください。

まずは今回のレースの説明から。日頃クルー不足に悩む艇に少人数でもヨットレースが楽しめるようにと、外洋三崎が1人乗りか2人乗りか3人乗りで小網代～南西沖ブイ往復のレースを企画しました。これは初島ダブルのいい練習になる。ぜひエントリーしなくてはと思ったものの初島ダブルの相方がその日はNG。他の人も見つからない。ならば一人が出るしかない。でもちょっと心配…と思ってシーボニアに行くと、シャークの関根さんが「うちはトリプルで出るから(ルンルン♪)」と実に楽しそう。「あの～シングルで出ようと思っているんですけど、まだひとりでスピンを上げたことがないので…」「スピンの回収はシート側のツイーカーを引いてアフターガイをポールから外して飛ばしちゃうと簡単に回収できるよ」と関根さん。なるほど、できるかな?とりあえず上げてみましょう、今日ひとりで。

という訳でその日一人で出艇し本番と同じコースを走ってみてイケそうならエントリーすることに。幸い風は南西3m前後と練習向き。シングルなのでNO,3をセットしいざセールアップ。アップルパイ(改造アクタス)で出艇していた関根さんを小網代沖で抜き、赤白を回っていざ南西沖ブイへ。ところが三崎港沖に差しかかったところで岸寄りを走っていたアップルパイに前をきられてしまった。ウソ～、いくらNO,3でも遅すぎる。そうかいつもバウしかやっていたいな

いからティラーを持っても集中力が続かないんだ。ガックリしながら南西沖ブイを回り、風も弱いからスピンを上げようとティラーをロープに固定。ところがティラーを専用の固定器具で縛っても上りはある程度まっすぐ走ってくれるがフリーは方向が定まらない。今回のレース参加艇はオートパイロット禁止なので、ティラーを固定しなければスピンのセットはできない。切り上がったたり、ワイルドジャイブしそうになる度慌ててコクピットに戻る。何回かバウとコクピットを往復しやっとスピンアップ。上がってしまえば弱い風なら安定して走る。回りにスピンを張って走っているヨットがいたので置いてかれないように必死にトリム。周りにレース艇がいれば集中力は保てるかも。赤白の遙か手前、トラブっても対処できる沖合で関根さんに教わったばかりのスピン回収にトライ。ツイーカーを引き、ポールからガイを飛ばす。あらあら不思議簡単にひとりでスピンが回収できちゃった。問題点は片手でスピンハリヤードを出しながら持っているの、残った片手でスピンをうまくたぐり寄せられるかだ。無事戻り風が弱ければスピンアップ、強ければ上げない。目安は白波 5m と決めその夜エントリーを済ます。

レース当日 6月 11日 (土)。いつもより早くシーボニアに到着。一人の艀装は結構時間がかかる。艇に近づくとウォーターラインに赤潮が。練習後の洗いが足りなかった。デッキに上がるとトンビかカモメかカラスの糞がべっとりとオーニングとデッキに (涙)。とてもレースなどする気にならない量だ。「鳥の糞害に憤慨！」とオヤジギャグからレースの 1日は始まった。

艀装を済ませジブをどうしようか迷っているとシャークの 3人が艀装を終え通りかかり「ジェノアでいいんじゃないですか。吹いてきたら巻けばいい」と関根さん。そうだ、ファーラーだ。吹っ切れてジェノアをセット。あと細々したこと (水のペットボトルをどこに配置するかなど) をしているとあっという間にスタート 45分前に！軽風に備えインナーバラストを下ろすべくトイレに行って約 700g 減量し準備完了。艇を下架したのが 9時 55分。10時 15分までに本部船にチェックインしなくてははいけない。小網代湾を出ると心配した運営船が迎えに来てくれた。申し訳ない。と運営船から「メイン大丈夫ですか？」と声がかかる。え、何かおかしいの?? 「たぶん大丈夫だと思います」と答えてみたものの不安になる。三戸浜沖にアンカーリングしている本部船に近寄りチェックインしたのは 10時 12分。ギリギリ間に合った。早速気になるメインを

上げてみる。大丈夫、ちゃんと上がった。このメインは千鳥さんから頂いたセールをリメイクしたもの。上げるのは今日で2回目レース初使用、しかも初のフルバテンだ。

スタートラインを見ると赤白浮標までの距離は同じでも風が南なのであきらかにアウターが有利。どうせ混み合うだろうから混戦を避け、みんなが出て行った後アウター側から出ることにする。なぜならシングルハンドだとすぐにはタックができないからだ。と言う訳でジブもスタート2分前まで出し惜しみする。その方が視界もいい。

スタート、5分を切るとみんなアウター側に集まって来た。いよいよ2分を切る、ジブ展開だ。あれ、開かない。何か引っかかっている！慌てて前に走り引っかかったシートを外す。その間に艇はあらぬ方向に。あああ、戻さなきゃ、ジブシート引かなきゃ、あ、届かない！もう1分を切ってるのになんで陸に向かっているんだ。スタートしなきゃ。とドタバタしているうちにスタートのホーンが！艇団から50mくらい離されてビリでスタート。いくらなんでも離れ過ぎ。しかし挽回力！レースは始まったばかり。スクラッチシートでは、フォルタレーザは後ろから4番目にフィニッシュしなくてはいけない。参加22艇なので19番手だ。50m離されて出たものの、本部船側から出た艇やブランケに入れられた艇などがいて小網代沖赤白浮標までに最後尾に追いつく。いや追いつくばかりか重い大型艇に追突しそうな勢いだ。イオロスは4m位までの風は本当に速い。追いついた先行艇の上に上って水をもらおうかとも考えたが、3艇身サークル？おそらく37ftとイオロス26ftの3艇身が何mなのかよくわからないのでメインを緩め艇速を落として赤白を回ることにする。この段階で自艇より下にいる艇は3~4杯。赤白までに3~4艇挽回したと思うとやる気が出てきた。

赤白を回るとクローズ、コース的にはポートロングとなる。しかしためらわずに即タック。諸磯岸寄りのコースを選択。そう2週間前、関根さんのアップルパイ（アクタス）に前を切られた原因は、三浦半島西岸を南に流れる潮のせいなのだ。レーザーでも「南が吹いたらスターボーをのばせ！」が長浜フリートのセオリーだ。干潮満潮関係なく南に流れる潮はあるようだ。この日は8時台に満潮になり、15時台で干潮になる。通常引き潮のときは沖の方が引く潮は速いらしいが、そんなことはこの際いいのだ。2週間前のアップルパイのコース

を引くのだ。見ると先行艇にも何艇か岸を選ぶ艇がいる。さらに後からこちらにタックしてくる艇もいる。その中の2艇は赤白まで先行していた学生達のVite31だ。よきところでタックをするとVite31 (SHARK Xと同型)の前を切れた。岸寄りコース大正解！このコース取りでおそらく4~5杯抜いたと思う。遅れをとった学生のVite31がタックを返して追いかけてくる。くそ~抜かれてなるものか！練習の時はすぐにあきて鼻歌歌って集中力を乱していたが近くにライバルがいると集中できる。しかしシングルハンド、もう少しシートを引きたいなど細かいトリムは手の届く範囲に限られる。ティラーを手放せば必ずコースは外れ、艇速は遅れるからだ。つまりシングルハンドは何を優先するかどこまで目をつぶるか常に選択を強いられる。

やがて学生のVite31に大きさにもものを言わされ下突破されてしまった。それでも離されないように必死で追いかける。この日は城ヶ島~真鶴間の他のレースも開催されていたので、城ヶ島沖は賑やかだ。レース中国際VHF無線をつけていたのだが、どうもうちのレースの運営のチャンネルではなかったようだ。もしかしたらこっちのレースだったか？途中でカツオ釣りがどうのこうと話していたし・・・。

天気がよくこの日は遠くからも南西沖ブイが見えた。GPSは首からぶら下げちょくちょく見ていたが、途中から視認できたのでひと手間省けた。長めのポートを走りきり、いよいよ南西沖ブイへアプローチする。他の艇の航跡を見ながらなるべくタックは少なくしたいのでややオーバーセール気味にいくことにする。トップ艇団は回るとすぐにジェネカーを上げている。そんな中上げない艇が1艇・・・おそらくシングルハンドの部 THETIS さんだ。ひとりじゃすぐには上げられない。後で聞いたところ、艇が落ち着くまで上げずに走ったとのこと。今回シングルハンドのエントリーは3艇のみ。もう1艇のAKURI 6さんはスタートから見失っていてどこにいるかもわからなかった。でもレーティング的にTHETISさんより前を走ることはいはず。これは準優勝を狙える位置だぜ！今回のレースは各部門上位3艇までが表彰される。シングルハンドはエントリー3艇なので完走さえすれば入賞なのだ。THETISはパールや初島卯月、大島レースもダブルハンドで出場するショートハンドの神のような艇。大きさも違う。ならば狙わなくては準優勝！そしてこの日3回目のタックをしてレイラインに乗せる。



南西沖ブイ回航。レーザーの癖でベアする時つい手を高くのばしてメインシートを出していく。こんがらがらないためだ。見るとすぐ後ろに HAYATE (SEAM31) がいる。おや、こりゃ結構いい位置にいるのでは？とぬか喜びした瞬間、あちら

はスピンを上げあつと言う間に横に並ばれた。仕方ないこちらも上げるか。ティラーを縛りスピンバックを出し、ポールをセットして・・・とやっているうちに何回となく艇は切り上がり何回となくバウとコクピットを往復する。そしてやっとスピンが上がった時にはすでに HAYATE さんは遥か前方に。振り返れば小網代の未央がスピンを上げて追いかけてくる。スクラッチシートでフォルタレーザの1艇前のレーティングだ。未央より前でフィニッシュすればビリはない！何がなんでも未央より前にフィニッシュするぞ！スピンシートは最初直に持ってトリムできたが、そのうち辛くなったのでドックハウスからコクピットのジブ用ウインチに回し、クリートした。シートを引きたい時はテンションのかかったウインチ間のシートを横に引くことで対処した。ウインチハンドルを回したり、出してクリートしたりする労力を省くためだ。あとはヘルムで対処。でもこの方法が意外といい感じで走らせられたのかもしれない。

結局復路は HAYATE に抜かれただけで、未央の追撃をブランケ避けて逃げ切った。今回のフィニッシュラインは赤白浮標と本部船の間。よかった、いつもなら赤白を右に見て小網代湾口でフィニッシュが多い。そうなる赤白前でスピン回収か、上げたままアビームフィニッシュとなる。一番トラブりやすいスピン回収がフィニッシュ前か、レース後そのまま突っ込んで狭い小網代湾内で回収になるのが避けられた。フィニッシュラインに近づくとシャークが待っていてくれるのが見える。心強い！最後の一踏ん張り、関根さんがカメラを構えている。いい顔しなきゃ。

12時53分フィニッシュのホーンを聞く。完走した達成感を数秒味わい、さあここからスピンドウンだ。シートのツイーカ



ーを引き、ポールからガイを飛ばす。あれ、なんかスピンの舞い上がっているぞ。しまった、いつの間にかスピンシートが緩んで出ていた。せっかくツイーカーを引いていたのに。しかし風が弱かったのとポールからガイを飛ばしていたので難なくスピンを無事回収。シーボニアに帰着する。

所要時間 2 時間 23 分 8 秒。陸に上がるとシャークの人達から THETIS と 10 分離れてないよ。と教えられたがまさかこのときは優勝すると思わなかった。

表彰式で最後にシングルハンドの部の成績が発表された。「優勝フォルタレーザ！」と告げられ初めて優勝を実感！素直に嬉しい！クラブレース以外でレーザーも含めヨット人生で初めて公式レースで優勝できた！たった 3 艇のエントリーだけど優勝は優勝。しかもあの THETIS に勝つての優勝。嬉しい～！！！！表彰式でシングルハンドは友達のいない部門ということで盛り上がった。

今回の勝因は

まずフォルタレーザは田中先生がシングルハンドで乗ることを前提に横山さんと協議の末、デッキレイアウトや艀装がされていること。ジブファーラー、メインスライダー、1 本リーフ、オートパイロットとティラー固定用シートセットなど。風がイオロス向きの 3~4m。波 50cm。スキルのないカトーでもスピンの上げられる風域であったこと。関根さんのアドバイスと事前にレースコースを走り、アップルパイ（アクタス）に負けたこと。それにより岸寄りコースを悩まずに選択でき結果も大当たり。そして秘密兵器、千鳥さんから頂いたフルバテンメインセールが大活躍。

あとは準備、スタートラインに着くまでに半分レースは終わっていると言われるが、エントリーしてからほぼ毎日頭の中でシュミレーション。さらに平日もメインセールのテストセーリングで出艇しコソ練もした。

パーティーの席で THETIS さんと話した時、シングルハンドは今までのヨット人生のすべてを試されるからやりがいがある、と語っていた。そしておそらく来年からシングルハンドはオートヘルムが許可されそうで、その時も THETIS さんは「よかったですね。我々は許可されないうちに出場できて」と言っておられた。あえて苦難の道を選ぶ、ショートハンド。ショートハンドの道は深～い！そしてオートヘルムなしの記録はたぶんもう破られることはないのだ。そして

フォルタレーザは初代チャンピオンなのだ。しばらくは浮かれる！今、浮かれなくていつ浮かれろというんだ。しばらくは浮かれていいのだ！

長々と自慢話におつきあい頂いて感謝いたします。
田中紀久子オーナー、フォルタレーザのメンバーの皆さん、
お世話になっているヨット仲間の皆さん、
そして天国の田中先生、ありがとうございました。

フォルタレーザ 加藤 裕己